

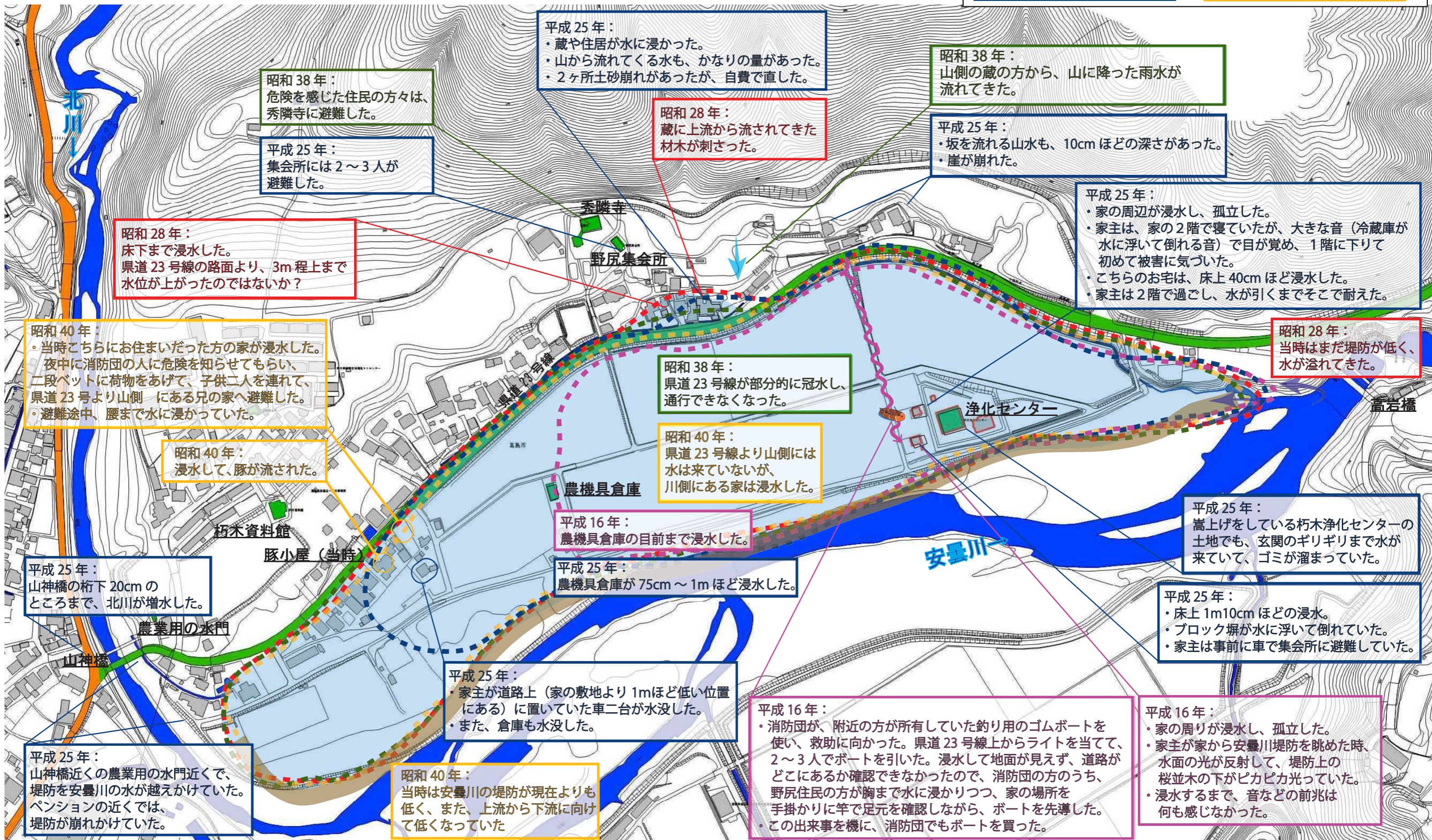
高島市朽木野尻水害履歴マップ その②

(H27.10.2 高島市朽木野尻集会所で行った聞き取り調査に基づき作成)

— 水害編 (昭和28年, 昭和38年, 昭和40年, 平成16年, 平成25年) —

凡例

昭和28年水害	浸水範囲
昭和38年水害	浸水範囲
昭和40年水害	浸水範囲
平成16年水害	浸水範囲
平成25年水害	浸水範囲



昭和38年：
危険を感じた住民の方々は、
秀隣寺に避難した。

平成25年：
集会所には2～3人が
避難した。

平成25年：
・蔵や住居が水に浸かった。
・山から流れてくる水も、かなりの量があった。
・2ヶ所土砂崩れがあったが、自費で直した。

昭和28年：
蔵に上流から流されてきた
材木が刺さった。

昭和38年：
山側の蔵の方から、山に降った雨水が
流れてきた。

平成25年：
・坂を流れる山水も、10cmほどの深さがあった。
・崖が崩れた。

昭和28年：
床下まで浸水した。
県道23号線の路面より、3m程上まで
水位が上がったのではないかと？

平成25年：
・家の周辺が浸水し、孤立した。
・家主は、家の2階で寝ていたが、大きな音（冷蔵庫が
水に浮いて倒れる音）で目が覚め、1階に下りて
初めて被害に気づいた。
・こちらのお宅は、床上40cmほど浸水した。
・家主は2階で過ごし、水が引くまでそこで耐えた。

昭和40年：
・当時こちらにお住まいだった方の家が浸水した。
・夜中に消防団の人に危険を知らせてもらい、
二段ベッドに荷物をあげて、子供二人を連れて、
県道23号より山側にある兄の家へ避難した。
・避難途中、腰まで水に浸かっていた。

昭和28年：
当時はまだ堤防が低く、
水が溢れてきた。

昭和38年：
県道23号線が部分的に冠水し、
通行できなくなった。

昭和40年：
県道23号線より山側には
水は来ていないが、
川側にある家は浸水した。

昭和40年：
浸水して、豚が流された。

平成25年：
嵩上げをしている朽木浄化センターの
土地でも、玄関のギリギリまで水が
来ていて、ゴミが溜まっていた。

平成16年：
農機具倉庫の目前まで浸水した。

平成25年：
農機具倉庫が75cm～1mほど浸水した。

平成25年：
山神橋の桁下20cmの
ところまで、北川が増水した。

平成25年：
・床上1m10cmほどの浸水。
・ブロック塀が水に浮いて倒れていた。
・家主は事前に車で集会所に避難していた。

平成25年：
・家主が道路上（家の敷地より1mほど低い位置
にある）に置いていた車二台が水没した。
・また、倉庫も水没した。

平成16年：
・消防団が、附近の方が所有していた釣り用のゴムボートを使
い、救助に向かった。県道23号線上からライトを当てて、
2～3人でボートを引いた。浸水して地面が見えず、道路が
どこにあるか確認できなかったため、消防団の方のうち、
野尻住民の方が胸まで水に浸かりつつ、家の場所を
手掛かりに竿で足元を確認しながら、ボートを先導した。
・この出来事を機に、消防団でもボートを買った。

平成16年：
・家の周りが浸水し、孤立した。
・家主が家から安曇川堤防を眺めた時、
水面の光が反射して、堤防上の
桜並木の下がピカピカ光っていた。
・浸水するまで、音などの前兆は
何も感じなかった。

平成25年：
山神橋近くの農業用の水門近くで、
堤防を安曇川の水が越えかけていた。
ペンションの近くでは、
堤防が崩れかけていた。

昭和40年：
当時は安曇川の水が現在よりも
低く、また、上流から下流に向け
て低くなっていた